



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校152年目の挑戦

大いちょう

令和 4年 4月28日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和4年度 No. 2 048 (829) 2737

主体的・対話的で深い学びの実現のために

校長 永山 誉

新緑が美しい季節となりました。学校を取り囲む木々が、眩しいくらいに鮮やかに新緑を彩っています。明日からいよいよ春の大型連休がスタートしますが、新年度を緊張の中で過ごしてきた子どもたちも、ホッと一息ついているのではないのでしょうか。

さて、新年度がスタートして1か月。それぞれの学年の子どもたちは、新しいクラスにも慣れ、自分らしさを発揮しながら過ごしています。4月の授業の様子を見ていますと、活発に発表している子、新しいクラスでの緊張からでしょうか、あまり自分らしさを発揮できていない子など、様々です。しかし、各学年始まったばかりです。子どもたちの成長は、まだまだこれからです。保護者の皆様には、子どもたちの可能性を信じながら、励ましと応援の言葉を子どもたちにかけていただけたらと思います。

ところで、私がこの1か月、教室を周りながら子どもたちの成長について考えたことをお話しします。子どもたちの成長には、子ども自身のやる気と周りの環境が大切です。蒔田晋治（まきたしんじ）さんが作られた「教室はまちがうところだ」という詩がありますが、ここにも成長のためのヒントがあると感じています。

詩 「教室はまちがうところだ」 蒔田晋治（まきたしんじ）作

教室はまちがうところだ みんなどしどし手を上げて
まちがった意見を 言おうじゃないか
まちがった答えを 言おうじゃないか
まちがうことをおそれちゃいけない まちがったものをワラっちゃいけない
まちがった意見を まちがった答えを ああじゃないか こうじゃないかと
みんなで出しあい 言いあうなかでだ ほんとのものを見つけていくのだ
そうしてみんなで伸びていくのだ (以下、略)

この詩は、学ぶことについて、大切なことを語りかけてくれているように思います。

私は、そもそも子どもたちとともに創り上げていく授業において、最初から間違っただ意見というものはないと考えています。授業というのは、子どもたちが、これまでの学習や経験等から様々な意見を出し合って、みんなで練り上げ、創り上げていく場であると考えからです。とにかく、子どもたちの意識の中に、間違えたらどうしようというものがあるかもしれませんが、この詩は、間違っている、間違っていないなどとは関係なく、自由に意見を出し合って、みんなによりよいものを創り上げていこう。そこには、お互いを尊重し合う気持ちが大切であるし、それがあれば人の意見を笑うなんてことは起こらない。そういうことを言っているのではないかと自分なりに解釈しています。

高砂小学校では、主体的・対話的で深い学びの実現のため、子どもたち一人ひとりの思いや願いを大切にしたい授業をこれからも展開し、授業の中で子どもたちを伸ばしていきます。どうぞ、御家庭におかれましても、子どもたちの頑張りをこれからも励ましていただければと思います。